令和 7 年度前期 FD 授業アンケート結果への所見(R7 年度 FD 委員会)

本学令和 7 年度前期開講科目を専門教育講義科目群、専門教育実験実習科目群、基礎教育科目(栄養士関連)群、基礎教育科目（一般）群の 4 科目群に分類し、FD 授業アンケートへの回答データを各群ごとに集計・分析して評価をした。

前期の 4 群の開講科目数は、それぞれ 10 科目、11 科目、8 科目、2 科目であった。4 群の平均回答率(履修者数に対する回答者数の割合)は、98～100％と高い回答率であった。以下にその所見を記す。

１）質問項目と評価方法

令和 7 年度前期 FD 授業アンケートの質問項目はこれまでと同様、大きく分けて前半の「学生の授業へ向かう態度、意識」を調査する内容(A あなた自身の自己点検)と後半の「学生による教員の授業に対する評価」を実施する内容(B この授業に関する評価)からなっている。専門教育実験実習科目は講義科目と質的に異なる部分があるため、質問項目 A7、B6、B10、B11、B13（後述）をこの科目群から除外し、別途、実験実習科目のみの質問項目 7 項目を設定した。その評価方法は、これまでと同様「0～5 点」の 6 段階で実施した。

質問項目

A. あなた自身の自己点検（あなたはこの授業をどのような態度で受けていますか。）

1. あなたはこの授業を、欠席や遅刻、早退などをせずに受けましたか。
2. あなたはこの授業中に私語や居眠りを慎しみ、まじめに取り組みましたか。
3. あなたは前もってこの授業の講義要綱(シラバス)を読みましたか。
4. あなたはこの授業で、板書事項や授業の要点をノートにとりましたか。
5. あなたは授業時間以外にこの科目の学習を 1 週間にどのくらいしましたか。
6. あなたはこの授業で、分からないこと疑問に思ったことについて質問をしたり、自分で調べたりしましたか。
7. あなたはこの授業を意欲と関心をもって学ぼうとしましたか。

B. この授業に関する評価(この授業に対するあなた自身の評価を示して下さい。)

1. この授業は、開始時刻・終了時刻が守られていましたか。
2. この授業は、シラバスにある授業の主題や目的に十分に沿っていましたか。
3. この授業は、わかりやすかったですか。
4. 教員の話し方・声の大きさなどは、明瞭で聞き取りやすいものでしたか。
5. 教科書(テキスト)やプリント、スライド、板書などは、わかりやすかったですか。
6. 授業の進め方・速さなどは、あなたにとって適切でしたか。
7. 教員は考えさせ、学生が発言や質問したり、意見を述べられるように配慮していましたか。
8. 教員は、学生の質問に的確に答えてくれましたか。

9.教員は、一人ひとりの学生に対して公平に接していましたか。
10.私語に対する注意など、授業を受ける雰囲気が教室に保たれていましたか。
11.教員は学生が授業時間以外に学習するように工夫していましたか(課題、復習問題など)。
12.教員は十分に準備し、熱意を持って授業に臨んでいると感じられましたか。
13.この授業を受けて、その分野に関する学問的興味や関心が高まりましたか。
（実験実習科目では下記の B13 となる）
14.この授業に対する、あなたの満足度はどれくらいですか。（実験実習科目では B15 となる）

実験実習科目のみの質問項目
A7.あなたはこの実験・実習で、意欲と関心をもって学ぶための作業をしましたか。
A8.あなたは、グループの他の人と協調性を持って実験・実習に臨みましたか。
B7.教員の説明や指示は適切でしたか。
B10.教員は、グループワークをしやすい雰囲気を作っていましたか。
B11.安全についての教員の指導と配慮は十分であり、また適切でしたか。
B13.実験・実習を通して、講義で得た知識を深めることができましたか。
B14. この授業によって、技術や実技などが身につきましたか。

２）調査方法
令和７年度前期開講科目を専門教育講義科目群、専門教育実験実習科目群、基礎教育科目(栄養士関連)群、基礎教育科目（一般）群の 4 科目群に分類し、前期 FD 授業アンケートをこの 4 科目群ごとに集計・分析して評価をおこなった。なお、4 科目群の開講科目は、それぞれ 10 科目、11 科目、6 科目、2 科目で、各科目群とその回答率（単純平均）を以下に示した。

4 科目群の分類と回答率
1. 専門教育講義科目（10 科目、回答率：98%）
栄養学
給食管理論
解剖生理学Ⅰ
解剖生理学Ⅱ
栄養指導論Ⅱ
臨床栄養学Ⅱ
食品学総論
調理学
食品衛生学
公衆栄養学

2. 専門教育実験実習科目（11 科目、回答率：98%）
応用栄養学実習
応用栄養学実習（組違い）

食品学実験Ⅰ
食品学実験Ⅰ（組違い）
調理学実習Ⅰ
調理学実習Ⅰ（組違い）
給食運営実習Ⅱ
給食運営実習Ⅱ（組違い）
栄養指導実習
基礎調理学実習
基礎実験

3. 基礎教育科目（栄養士関連）(8 科目、回答率：98%）
化学
有機化学
栄養学入門
生物学
発酵と麹
基礎数理
栄養と病気
栄養士概論

4. 基礎教育科目（一般）(2 科目、回答率平均：99%)
文章表現法
英語

いずれの科目群においても高回答率（98%以上）であった。まず各質問項目ごとに平均値を求めて 4 群を評価した。評価方法は、「非常にそう思う:5 点」と「そう思う:4 点」の高いスコアを回答した学生の割合を合計したパーセンテージが 80%以上のものを授業の目的が達成されていると評価した。一方、80%未満のものを改善が必要であると評価した。

３）調査結果
（１）全体的評価
Ａの「あなた自身の自己点検」7 項目／8 項目（専門教育実験実習科目群)、Ｂの「この授業に関する評価」14 項目／15 項目（専門教育実験実習科目群）での「5 点と 4 点」の割合が 80%以上であった項目数を以下の表に示した。

	「5 点と 4 点」の合計が 80%以上の項目数と割合*			
	専門教育講義科目群	専門教育実験実習科目群	基礎教育科目（栄養士関連）群	基礎教育科目（一般）群
A「あなた自身の自己点検」	４／７ (57%)	７／８ (88%)	４／７ (57%)	４／７ (57%)
B「この授業に関する評価」	９／１４ (64%)	１３／１５ (87%)	１４／１４ (100%)	１３／１４ (93%)

*；分子が該当項目数、分母が調査項目数。括弧内の数値はその割合（%）

B の項目（授業に対する評価）では、専門教育講義科目群を除いて概ね授業自体に対する学生の満足度は良好なものの、A の項目で基準に大きく到達しない科目が散見され、学生の学習に対するモチベーションの維持、能動的学習態度の醸成に課題を残したと言える。

（２）「5 点と 4 点」の合計が 80%未満の項目

「5 点と 4 点」の合計が 80%未満であった項目を以下の表に示した。

科目群	「5 点と 4 点」の合計が 80%未満の項目とそのパーセンテージ*	
	Ａあなた自身の自己点検	Ｂこの授業に関する評価
専門教育講義科目群	A3(72%),A5(32%),A6(77%)	B3(73%),B5(75%),B6(79%),B13(78%),B14(78%)
専門教育実験実習科目群	A5(41%)	B8(79%),B15(79%)
基礎教育科目(栄養士関連)群	A3(70%),A5 (21%),A6 (69%)	—
基礎教育科目(一般)群	A3(70%),A5(26%),A6 (79%)、	B13(75%)

*；該当項目の質問事項。括弧はそのパーセンテージ。

A3. あなたは前もってこの授業の講義要綱(シラバス)を読みましたか。

A5；あなたは授業時間以外にこの科目の学習（課題作成等を含む）を１週間にどのくらいしましたか(課題作成等を含む)。

A6；あなたはこの授業で、分からないこと疑問に思ったことについて質問をしたり、自分で調べたりしましたか。

B3；この授業は、わかりやすかったですか。

B5；教科書（テキスト）やプリント、スライド、板書などは、わかりやすかったですか。

B6；授業の進め方・速さなどは、あなたにとって適切でしたか。

B8；教員は、学生の質問に的確に答えてくれましたか。

B13；この授業を受けて、その分野に関する学問的興味や関心が高まりましたか。

B14；この授業に対する、あなたの満足度はどれくらいですか。

（２－１）「Ａあなた自身の自己点検」の項

3 項目(A3、A5、A6)で 80%未満のものがみられ、A5 は 4 科目群全てに該当して多くの科目で、授業時間以外で 1 週間の学習時間が 1 時間未満が多数派を占めており、自宅学習時間がかなり少ないことがわかった。このことから予習や復習の習慣ができていないことが考えられ、専門知識の定着が気がかりである。A3(あなたは前もってこの授業の講義要綱(シラバス)を読みましたか)，A6（あなたはこの授業で、分からないこと疑問に思ったことについて質問をしたり、自分で調べたりしましたか）についても、総じて低スコアを示すことからも、受動的な学習態度からの脱却が困難な学生が多いことが見て取れ、そのような学生に対するサポート体制や能動的学習意欲の涵養をどのように進めていくのか、課題が残った。

（２－２）「Ｂこの授業に関する評価」の項

専門教育講義科目群以外では全ての項目で 80%以上の値を示し、順調に教育が進められている様子がうかがえる。一方、専門教育講義科目群では 14 項目中 5 項目が 80%未満となった。専門教育講義科目群の 4 項目(B3～B6)は、講義の中核をなす部分であるにもかかわらず、「テキストの質、伝え方」等に問題があり、これが原因となり B3(授業のわかりやすさ)がさらに低下したものと考えられる。この傾向はまた、最終的な B14(この授業に対する、あなたの満足度はどれくらいですか)が 78%と 80%を切る結果となった考えられる。従って、B3～B6 に含まれる B3，B5，B6 については特段の改善が必要であると考えられ、これらの改善により B14 の項目が上昇すると考えられる。特に、個々の科目で 80%未満が見られる科目の項目については早急に対応するよう各教員間で情報交換、意見交換を密にしていく。また専門教育科目に関連する基礎教育科目の受講を苦手意識から忌避する学生も見受けられることから、そのような学生については関連基礎教育科目の受講を促し、シームレスかつスムーズな専門教育科目のへの接続ができるような対策も考えるべきであろう。

以上